（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）　昭和三年五月五日　THE TAIRASHIMPO　第六十號　〔一〕

平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料 五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

今日は磐中の開校紀念日

同校の沿革と現在の概要

本五月五日は磐城中學校の開校記念日で大運動會が催される、本紙は創刊以來教育振興の意味から逐號同校の紹介と同校同窓生の動靜を報じて居るが特に例年本發行日には總括的の紹介をなす事に力めて居る、顧みて同校の沿革と現在の概要を報ずるも徒事ではあるまい

同校は明治二十八年十月三十日福島縣尋常中學校磐城分校として舊菊田、磐前、石城全町村組合から設立願があつて同年十一月十六日認可になり、二十九年四月五日に開校同五月五日縣吏員等の臨席の下に開校式が催されたといふ。故に同校の

開校紀念日 はこの五月五日となつて居る……次いで三十一年四月一日分校を更めて第二尋常中學校となり、三十二年四月尋常の二字をとり、三十四年四月福島縣磐城中學校と、引いて同年同月二十七日現在の『立』となつたのである。

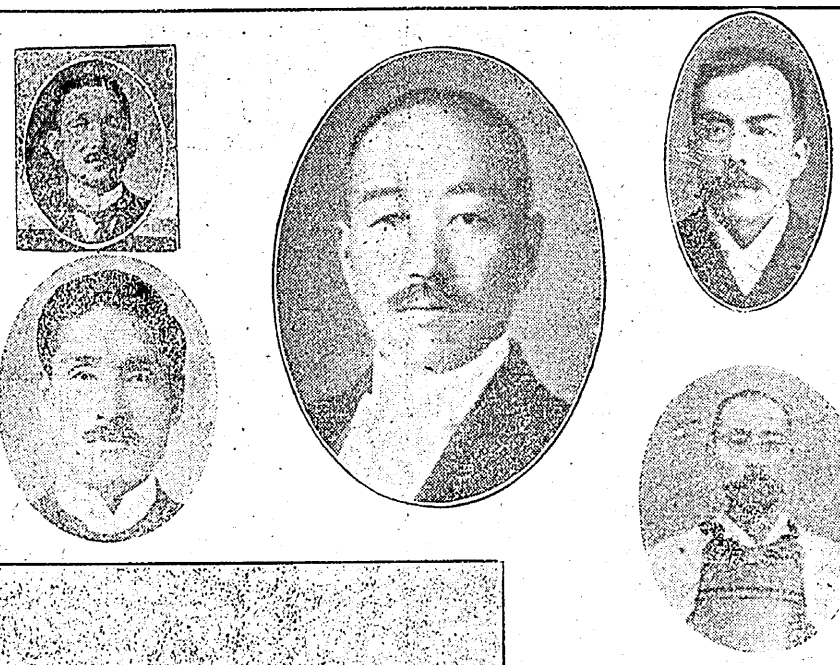
校舍敷地 は平町揚土臺には大正十二年三月三十一日迄で同年四月一日より現在の

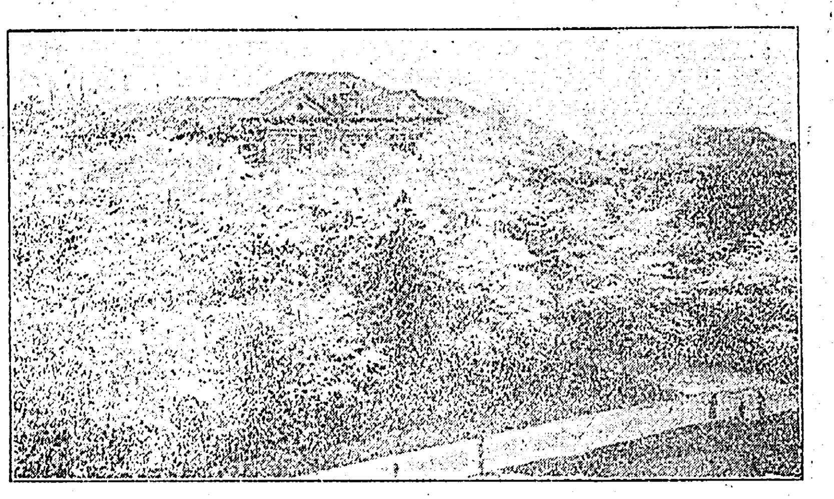
高月臺 に移つたのである

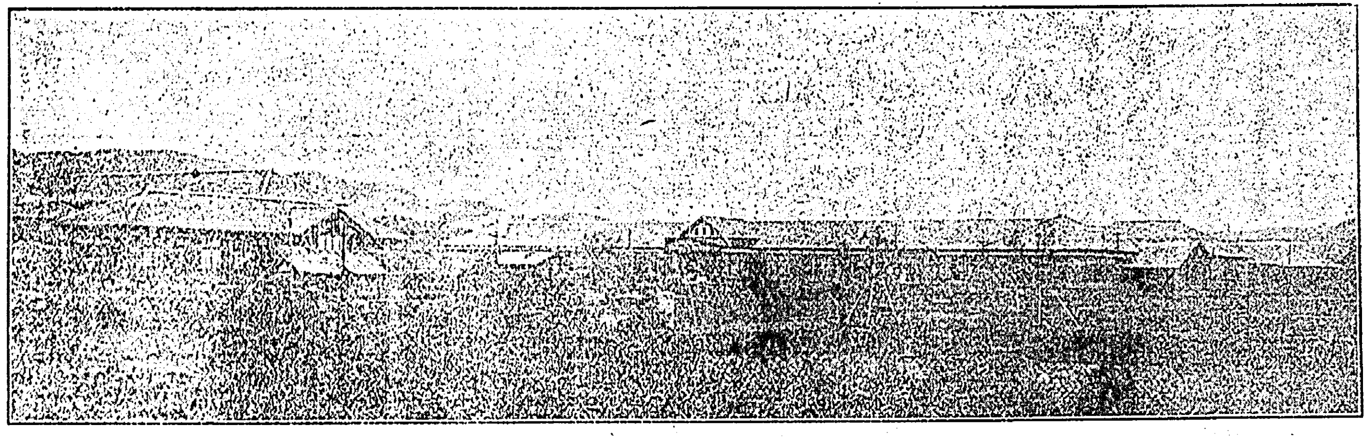
生徒の數 を見るに明治二十九年開校當時に百十六人の入學を許し三十四年卒業生第一回四十三名を出した、三十四年四月在校生總數四百九十二人、四十五年四月一日には五百二十一人、大正十一年四月一日は八百七十八、十五年四月一日壹千五十四人の二十二學級職員數三十五人現在は壹千百拾二名の二十四學級職員數四十一名『うち配屬將校書記二名を合せて』で校舍と申し設備と申し東北切つての最大中學として誇つて居る、其間の

歷代校長 は

▼植竹源太郎氏、開校時より明治四十四年三月迄
▼西村岸太郎氏、大正三年九月迄
▼桐谷文平氏、大正十年三月迄
▼滑川一郎氏、大正十五年十二月十二日迄
▼山崎光雄氏、滑川氏現職のまゝ死亡により大正十五年十二月十三日より昭和二年三月十九日迄校長事務取扱
▼唐土齋治氏、昭和二年三月二十日田村中學校長より就任現在に至る。







◎寫眞說明『校長と校舍』
▼校長、向つて「右上」故植竹源太郎氏「下」故西村岸太郎氏「中」桐谷文平氏「左上」故滑川一郎氏「下」現校長唐土齋治氏
▼校舍、「上」思出多き揚土臺の元校舍「下」輪奐たる美觀を呈する高月臺下の新校舍

磐中同窓會 會員名簿

三年三月調

新田目、廣田氏等の努力に依つて昭和三年三月調の二十七回迄磐中同窓會員名簿が出來たいづれ近日各會員に配送される事であらうが御受取りの際は名簿印刷費として金壹圓母校内廣田德行氏宛『振替口座東京一六四六三番』送らるべしと

釜屋の慶事

鐵ちやん兄さとなる

平町釜屋商店では去月二十三日御目出度があつた、元三郎氏次男出生『政良』と命名せりと、同氏長男の鐵二郎さんは兄さんとなる。

祝 磐城中學校開校記念日

磐中職員交誼會
校長 唐土齊治
教頭 山崎光雄
書記 渡邊博
外會員一同

平町釜屋商店 諸橋守次 (11)
平町釜屋商店 諸橋元三郎 (16)
磐城建物會社 井上貞治郎 (11)
平町關内油店 關内正一 (16)
磐城銀行專務取締役 白井一郎 (7)
磐城銀行取締役 草野順平 (5)
平町山崎合名會社 山崎清三 (3)
平町住吉屋本店 靑天目增藏 (17)
内郷村會議員 加藤丈夫 (6)
平町中野呉服店 中野康平 (12)
平町中野呉服店 松本榮一 (11)
平町住吉屋支店 酒井清 (12)
平町銘酒ユラノスケ釀造 永山勇吉 (15)
湯本郵便局長 鯨岡潔 (16)
湯本町松柏館 比佐榮一 (16)
平町中野洋品店 中野勇雄 (23)
平町マルトモ書店 柴田德二 (11)
平町阿部石炭店 阿部政右衛門 (7)
平町才槌小路 新田目春松 (6)
平町玉川 國府田直良 (8(
平町新川町 平驛勤務 高野益造 (16)
湯本町山形屋 鈴木康平 (14)
平町米穀商 長瀬齊一 (11)
北海道留萌病院 佐々木馨吾 (16)
平町大和田耳鼻院長 大和田郡司 (13)
平町材木町 阿部治兵衛 (22)
平商業學校 武川信夫 (20)
磐城高等女學校 山崎忠二 (19)
平自動車商會 野崎喜八郎 (12)
川前村 永山德一 (1)
平新報社 山野邊庄吉 (16)

植田町本町
森合歯科医院
森合芳男

磐城湯本 温泉旅館 松柏館 電話五番

五月十六日より婦人世界賞讃
女優好み「夏の生活美」表現浴衣地陳列會
五月廿六日より婦女界推奬
オール、スター、キャスト好み
「草の葉染中形陳列會
平町三丁目
中野呉服店
電話六十七番

X光線科
吉田秋醫院
平町南町 電話一二九番

平町田町
高久病院
電話五一三番

入院應需
内科、小兒科、皮尿科
藤名醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意チ
平町四丁目
關内藥舗
藥劑師 關内榮助
電話四〇番

可愛いお子樣の
通學用
防水ゴム引マントの特賣
男子用 一、五〇ヨリ 二、六〇マデ
女子用 一、六〇ヨリ 二、七〇マデ
平町貳丁目 なかや洋服店 電二〇三

サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價

和洋銅鐵金物
平町五丁目
釜屋商店
電話九番 一三九番

不思議な滋強靈液
養命酒
本酒を用ひて適切に靈能の分る人々
養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く强力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に……結核素質者○胃腸病○神經衰弱○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉强又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛 其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▼大瓶 五八〇五入 金貳圓
▼中瓶 四〇〇五入 金壹圓五拾錢
◆四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います
發賣元 信州 天龍館東京支店
代理店 平町五丁目
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎
◎養蚕用寒暖計
◎農藝用消毒藥各種

◎民衆本位 登記の實際
附 家庭實用法律心得
民衆法令普及會發行
四六版上製上質六百二十頁
特價金貳圓參拾錢
◎修業立志編 福澤先生著
四六版二百七十頁定價金壹圓也
◎福翁自傳
四六版五百五十頁 定價金壹圓七十錢
平町二丁目
清光堂書店
電話一三一番
振替口座東京五三八八
御注文の際は迅速に御屆け致します

平和創節製造發賣元
海陸物産問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
鈴木道太郎商店
（振替東京六一二〇一番）
◎最上の鷄餌（魚粉）

日本石油株式會社特約店
營業種目
内外機械油 發動機用油 色油類各種 度量衡器 カーバイト コールタール 石油乳劑
平町二丁目
清 關内油店
關内正一
電話局十六番
郡山支店開設
郡山市驛前 關内油店 電話三二八番
支店（油槽所） 茨城縣多賀郡關本驛前 電話平潟三十七番

磐城セメント代理店
平町二丁目
西村屋藥舖
電話[illegible]三番

同窓動靜（七）

最近上級學校入學者（二）

前號報道の外磐中同窓生にして上級學校へ入學を許可されたる者左の如くである。

◆第二高等學校
二十七回　草野　悟郎
◆早大商科
二十八回　木田　武男
◆東京高等商船學校
二十七回　清見　三郎
◆東京高等工藝學校
二十六回　川上　保夫
◆明治大學
二十八回　市井　茂
◆法政大學豫科
二十七回　新妻　晃
◆明大豫科
二十七回　小林二四郎

◆國學院大學高等師範部
二十八回　佐藤　剛
同　豫科
二十六回　長谷川　叶
同　同
二十七回　三浦　幸雄
◆慶應大學豫科
二十八回　鈴木　隆技
◆明治大學專門部
二十八回　志賀　重惠
同
二十七回　大平　進
◆拓殖大學
二十八回　岡田　隆廣
◆東京齒科醫學專門學校
二十四回　合津　春三
同
二十六回　鈴木　忠房

同窓會と代々の役員

磐城中學校の沿革と現在の概要は一面記載の如くであるが其校卒業生を以つてなる同窓會の模樣を見るに本年三月第二十八回迄の卒業生總人員貳千貳百八拾七人うち死亡會員二百二十名にして二千六十七名の會員があつて、毎年八月十日午後一時より同校に於て例會終了後懇親會を催し母校及び會員に事件出來や其他にはそれぞれ適宜の處置をなし新年宴は一月三日夜開催相互の親睦を計つて居る、現在役員の任期は二ヶ年であるが今代々の役員を調ふるに左の如くである。

▼第一回『明治卅四年八月』
會長金古久次、幹事森田一郎『在校五年生』
▼第二回『三十五年』
會長四條七十郎、幹事花澤市臺、波多野通理
▼第三回『三十六年』
會長比佐昌平、副會長加藤木保次、幹事渡邊庄五郎、山崎宣吉
▼第四回『三十七年』
會長栗原一郎、副會長山下樾爾、幹事夏井要次郎、鈴木芳之助
▼第五回『三十八年』
會長堀尾成章、副會長松本政勝、幹事山部正勇、西村東太
▼第六回『三十九年』
會長八木澤文吾、副會長北郷博、幹事佐藤順平『改姓草野』新田目春松、
▼第七回『四十年』
會長吉田哲五郎、副會長高荻桂次郎、幹事松崎林八、阿部政右衛門、三瓶信一、比佐義勇

現會長　白井一郎氏

▼第八回『四十一年』
會長山崎宣吉、副會長清水廣政、幹事加藤丈夫、諸橋嘉吉、梅原幸助
▼第九回『四十二年』
會長廣田德行、副會長新田目春松、幹事白井一郎、小齋良、高萩賀
▼第十回『四十三年』
會長山崎清三、副會長新田目春松、幹事田邊保皓、久野二郎、安島久
▼第十一回『四十四年』
會長山崎清三、副會長新田目春松、幹事田邊保皓、新宮健雄、柴田德二
大正元年は明治天皇諒闇中開催を遠慮せりと
▼第十二回『大正二年八月』
會長山崎清三、副會長新田目春松、幹事山崎宣吉、松崎憲司、柴田德二
これより任期を二ヶ年とす
▼第十三回『四年八月』
會長加藤丈夫、副會長阿部政右衛門、幹事濱島操、山崎宣吉、佐藤寅吉
▼第十四回『六年八月』
會長山崎清三、副會長新田目春松、幹事柴田德二、長瀬齋一、佐藤寅吉
▼第十五回『八年八月』
會長新田目春松、副會長柴田德二、幹事長瀬齋一、根本毅一、石川友次郎
▼十年再選
▼十二年
會長新田目春松、副會長井上貞治郎、幹事根本毅一、石川友次郎、酒井清、永山勇吉、藤田榮助
同時に評議員を設け、山崎清三、清水廣政、草野順平、阿部政右衛門、加藤丈夫その後引いて毎年開會せるも集會員尠く選擧をなさず
▼大正十五年八月改選の結果現在に至つて居る
會長白井一郎、副會長は二名として仲里文平、三森虎雄、幹事遠藤俊一郎、關內正一、諸橋元三郎、青天目增藏、木村守江、選ばれ庶務關內正一、會計は諸橋元三郎
評議員山崎清三、新田目春松、山崎宣吉、清水廣政、加藤丈夫、廣田德行、草野順平、阿部政右衛門

評定官一行來湯實地檢査 これで決審を見るか

注目さる、湯本町 地下試掘行政訴訟

溫泉を生命となし來りし湯本町の死活問題たる同町地下試掘行政訴訟問題は今尚は決定を見ぬが過日實地檢證として東京行政裁判所評定官澤田竹次郎、書記官永井質太郎、鑑定人工學博士『帝大教授』佐野秀之助同じく古河鑛業の理學士末次猛の諸氏、原告側吉本眞一氏辯護士阿部、增田の兩名、被告仙臺鑛山監督局星、市丸の兩名、從參加人湯本町區代表者代理辯護士仲里の諸關係者立會の上去月二十二日以降數日間來湯し精細なる調査をなし引き上げたるが今回の檢証にて決審を觀るもの丶如く湯本町民は勿論一般に注目されて居る事此處に至りし經緯については本紙が再三屢報せる事にて詳報を見合すが昨年十一月九日公判開廷の際湯本町區は被告從參加の上東京迄各自費にて傍聽に行きたる等地下試掘反對に熱度を示したるため大分從參加が効果あるものとせられて居るらしい。

新綠薫る高月臺上の 磐中大運動會

呼物は小學校選手競走

前二回迄平第一のもの 優勝旗はいづれの校に

恒例に依つて磐中の第三十回大運動會は本五日平町高月臺上同校庭にて催される競技六十二組、うち五年の中隊教練、四年五年のサックレース等見物たるべく殊に人氣を呼ぶは郡下小學校の優勝旗爭奪戰で今回の優勝旗は前二回迄平第一小學校が得て居る事なれば今三回目に平第一が優勝せば永久に同優勝旗は平第一のものたるべく同校選手是非とも獲得せねばならぬと猛烈な豫行をなして居る。

磐中五年生 修學旅行 關西方面へ

十日より十六日迄

磐中第五學年では本年の修學旅行は關西方面に向ふ事となり五月十日より十六日迄一週間見學視察地は東京、伊勢神宮、奈良、大阪、京都、各方面の神社、佛閣、名勝等であると。

流行の魁

松竹女優好みにて人氣を博した

中野呉服店 今度は

草の葉染中形 と **表現浴衣地** の陳列即賣會

平町三丁目中野呉服店は流行の魁として何時も目新らしい品を豐富に取揃へてあるが過日の『松竹スター好み着尺モス』に引續き初夏に相應しい色合と肌ざわりよい『松竹女優好みセル』の賣出しをして人氣を博した……に鑑み來る五月十六日より『表現浴衣地』大賣出しの爲に例により映畵女優の着付ブロマイドを添付して丸龜陳列場に陳列即賣をする由、又五月廿六日よりは『草の葉染中形浴衣地』の陳列即賣會を催すがこれは帝都に於ける人氣俳優及び映畵女優を主題として其藝風なり性格、容姿等から受けた印象を圖案化されて出來た浴衣模樣で着付寫眞添付は勿論である、從來の浴衣地とは異つたもので、此表現浴衣地は六月號の『婦人世界』誌上に、又草の葉染中形は同じく六月號の『婦女界』其他週間朝日、アサヒグラフ等へ寫眞と共に詳細發表されるものであつて如何にその優れたものであるかは陳列に苦心する丸龜の意氣込みによつても判るであらう、聞く所によれば草の葉染中形は東京は三越呉服店一ヶ所で福島縣は福島の中村呉服店、若松は塚原呉服店、平は丸龜中野呉服店の三ヶ所のみだと

因に表現浴衣地の圖案は東京美術學校講師齋藤佳三先生の平常の主張である『生活美は全体の調和が必要』との見地から現代人に最もよく調和する模樣柄合を浴衣地に發表されたのである

× × ×

クラス會と方部會

磐中初代の校長故植竹源太郎氏の言を借りて申せば同窓生相互の間にても友情の最も濃やかなるは中學時代の同窓の如きもの無かるべければ相互に其の近況を知らんと欲する情は小生と御同樣なるべしと察し申し候……中畧云々として音信交換所設置の奬めあり本紙氏の進言を甘受して磐中同窓及び舊師間の紙上音信交換に力めつゝあるは故なきにあらざるものである、この意味に於て同窓會中の各クラス會は盛んなもので今平町を中心としてクラス會を見るに古き第一回に合津、安藤兩氏居れども會員尠きか相互の出入位の樣で二回て、山崎宣吉氏、比佐昌平氏等時折集まる事もあるとか、三回に來て山崎清三、清水廣政氏等四、五、六、七、八等も同樣で九回に來て山田磐磨、仲里文平氏等の集り、三三會と稱し……十一回は諸橋守次、柴田德二、松本榮一、長瀬齋一氏等の集りで十會十四回に來て吉田政雄、故人となつた加藤新（卒業生ではないが）氏等が湯本町其他で會合して居る樣である、會名は何とつけて居るか知るを得ぬ。十六回に來て高野益弟、諸橋元三郎、吉田義男、關內正一、比佐榮一、鯨岡潔、森合芳男、小野保氏等を中心に二八會と稱す、十七回は青天目增藏、多田井笑次郎、高木武一郎、齊藤直一原精一氏等に依つて十七睦會と、十八回に來て木村守江、新妻喜男氏等のクラス會は何と稱するか時折會合するもの丶如くである

次は同窓會を地方別に觀望すれば四ツ倉町に磐中同窓會あり、門馬倉次郎、根本龜吉氏等牛耳をとつて居り植田方部には同聲會と稱して會合して居る、東京には在京磐中同窓會あり會長四條七十郎氏、幹事赤津誠內鈴木兵一郎、荒川精一氏其他。

大阪方面に石城會佐川潔氏を會長として親睦を計つて居る由である、此處に見逃してならぬは磐中同窓會員中の柔道家を中心として成る平町に事務所を置く磐城講道館有段者會で會長を諸橋守次、幹事に加藤丈夫、中野康平、關內正一、顧問に鷹崎正見の諸同窓會員が參加して居る。

雜詠

湯本町　透眞生

草原をあゆむ子供はたはむれて
　蝶追ふさまものどかなりけり
畔道にほゝつゝねつきし乙女子は
　彼方を通る牛を見てあり
ふくよかに吹く朝風にうつゝなく
　若草原にわれたちにけり
麗かに光りまばゆき大空に
　野雀鳴くなり姿は見ねず
若草に咲き出でにけりたんぽゝの
　かしこに一つこゝにも一つ

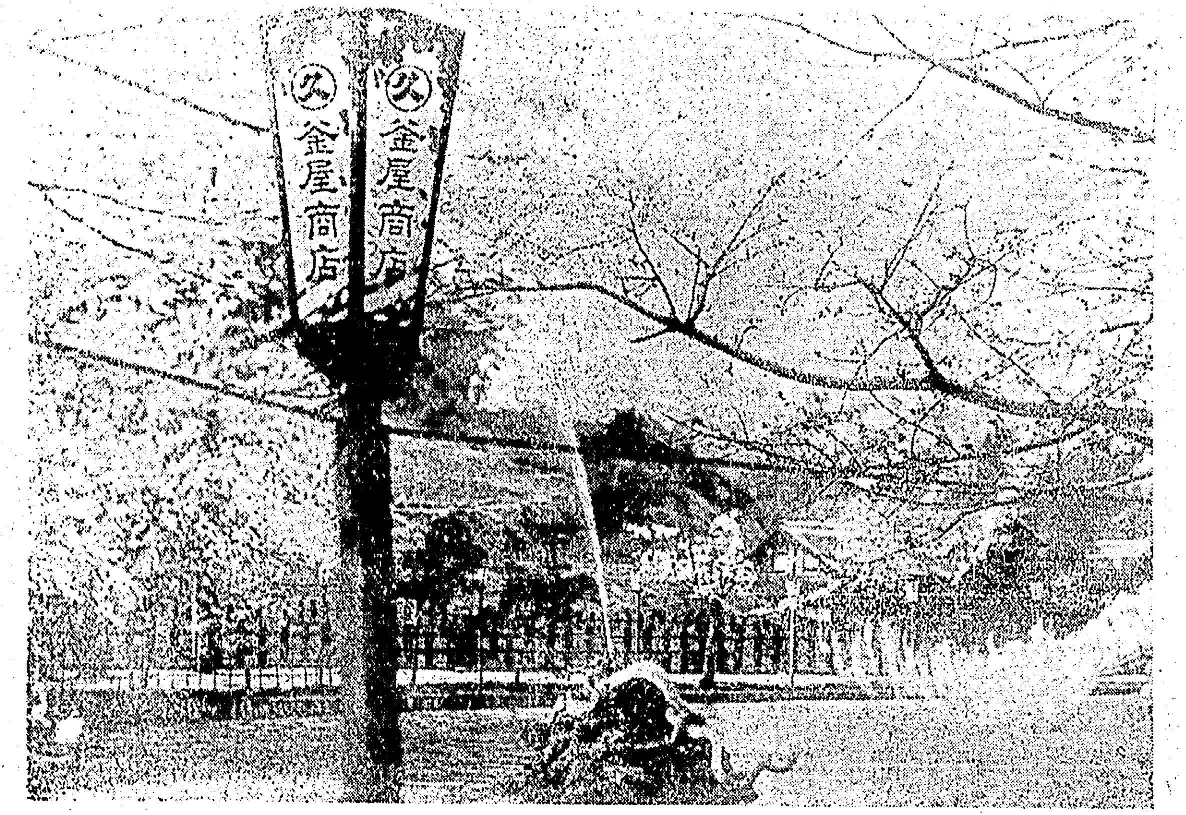
加藤新氏永眠

平町田中居住植田町常磐工業株式會社常務取締役加藤新氏は腸チブスに罹り平隔離舍にて療養中の處去月二十二日永眠した、氏は磐中四學年修了後早大に學び政治經濟を修め歸鄉して小野庄一氏等と常磐工業社を起し政黨に在ては比佐昌平氏の關係上民政黨に置き石城支部の幹事であり若き實業家政治家として將來を囑望され各方面より氏の死を惜しまれて居る、行年三十四歲葬送は遂つて實家たる錦村安良町にて行ふ由である

鈴木長壽氏

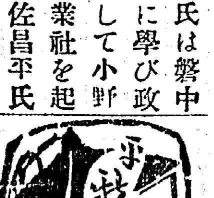
大浦助役就任

物故せる大浦村助役片寄喜三郎氏の後任に付いては物色中であつたが去月一日を以て前收入役鈴木長壽氏が助役に選ばれ就任せりと。



櫻花より……新綠へ
（平松ヶ岡公園辨天池）
池中の噴水は釜屋商店寄贈の臥龍

◆平色街



舞踊のオーソリチイとせられて居る品澤の女將アクさん本年が六十一歲のかん曆で年末にては數へ妓等赤い着物を進呈して昔の半玉まがいの婆さんを扮せしめて大祝賀會音習會を催すとの事である同女將は十八のときから平に來て四十有餘年その當時は玉代は驚く勿れ八錢、卵は二厘、何々はいくら、然し米のチダンは知らなかつたと、東京藝妓は平に二人しか居らなかつたとの御自慢である、事古きに屬するが同家抱ひの小竹の死亡に際し借用證二千何百圓を瞑目の前にくれてやつた程の人情の人、因果應報ナサケは人のためならずですね―と新田街妓の夜話しをそのまゝ◆花見後の新妓を紹介すれば湖月からしな子石岡からの轉任なそうである◆時に平の櫻が散ると等しく去つた玉川の例の玉太郎は中村は壽家へと鞍替

話耳目

やれ議會停會の、流行病のと人間爭鬪のうちに自然は新綠生生と榮の花の蕊、青麥出揃ふて苗代に種子蒔かる……農家の多忙もこれから！

冬は嫌はれるカラ風も追々綠蔭の淸風として好かれる……否な近つく……人生は土から生れて土に育まれ、苦、樂共に日、月、年と操り返して土に入る偉なるかな天地自然の配轉！

祝平新報之發展

◎植田町
坂本醬油店
郵便局長　馬上守一
植田裁縫女學校
旅館料理　山田屋　本館　別館
旅館　菊田屋
旅館料理　喜多野屋支店
鐵屋商店
龜田屋呉服店
日の本興行部　越後家
松本藥店
荒物雜貨商　山口近之助
旅館　喜多野屋榮作
太田信昌
森合齒科醫院
植田運送會社
綠川秀男
待合　浮世
片岡醫院
材木商　秋山製材部
植田町　秋山市造
川前郵便局長　永山龜太郎
平町久保町　永山和平
川瀨炭礦常磐礦業所　所長　川瀨幸治
赤井村

◎四倉町
町長　杉原新伍
助役　菅波千之助
町會議員　面川龜之介
町會議員　大和田安太郎
町會議員　長谷川平八
四ッ倉電氣會社　中野捨與
四倉運送株式會社　酒井忠太
醫師　門馬倉次郎
佐藤齒科醫院
杉本齒科醫院
磐城女子職業學校
菓子商　長谷川好之助
海産物商　若松磯吉
青木清勝
新妻藥舖
深谷藥舖
セメント代理店　鐵屋商店
御料理　和泉屋
大浦村　醫學士　木村守江
四倉町　消防組頭　戸田雄章
四倉町　驛長　二階堂寛
四倉藝妓屋組合